

## 茯苓 HOELEN

茯苓は、「史記」には伏靈とある。これは、松の神靈の気が伏結してできるものとして、伏靈といった。これを苓と書くのは伝写のあやまりという。下に伏靈があると、その上には菟糸（ハマネナシカズラ）などがあるというところから、また、伏菟ともいう。<sup>2)13)</sup>

### (基原)

サルノコシカケ科(Polyporaceae)のマツホド *Poria cocos* Wolfの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものである。<sup>1)2)5)</sup>

### 由来<sup>13)</sup>

和名は、漢名の音読み。マツホドは、松にできる塊の意味である。

学名の、*Poria*は、poros (孔) という意味であろう。polyporosは、poly (多い) + poros (孔) で、この類のキノコの傘の裏に、多数の管孔があるため  
の名。cocosは、菌核の形からヤシ科の属名からの転用されたものであろう。

### (性状)

塊状を呈し、径約10~30cm、重さ0.1~2kgに達し、通例、その破片又は切片からなる。白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色である。外層が残存するものは暗褐色~暗赤褐色で、きめが粗く、裂け目がある。質は堅いが砕きやすい。<sup>1)</sup>

臭いはほとんどなく、味はないがやや粘液ようである。<sup>1)</sup>

菌核は不定の塊状で、大きいものでは径30cmに達する。外面暗褐色~暗赤褐色できめがあらく、こぶ状のしわがあり、内部はほぼ白色でやや赤味を帯び、特殊な臭気がある。子実体は菌核の表面に生じ、全背着生で蓋を作らない。初め白色しだいに淡褐色となる。管孔を密生し、その内部に子実層を作る。有性世代は容易に見られない。

基原植物：日本産のものはアカマツやクロマツ、中国産はアカマツやPinus m-

assoniana L. (馬尾松：タイワンアカマツ) を伐採してから3～5年経過した切り株の付近で、地下の深さ15～30cmの所にある根に付着して形成される。<sup>1)4)</sup>

(産地) <sup>1)2)4)14)</sup>

日本：野生品であるため、年々生産量が低下している。

関東～東北中部

中国（湖北、雲南、広西、安徽、湖南、貴州）：野生品と栽培品がある。

野生品：雲南省、貴州省から主に生産される。特に、雲南省のものは「雲茯苓」または「雲苓」と称し、内部が純白で非常に良品とされるが、わが国にはほとんど入ってこない。

栽培品：安徽省から栽培がはじまり、今は湖北省、広西壮族自治区に生産量が多い。栽培品が出始めてから市場では赤茯苓、白茯苓の区別がはっきりなされてきたと思われる。

北朝鮮：野生品が主体である。

韓国

東医研で使用している茯苓は「北朝鮮産」である。

(品質) <sup>8)13)15)18)</sup>

白色又は淡紅色で、質で堅く、やや粘液性の多いものが良品とされる。

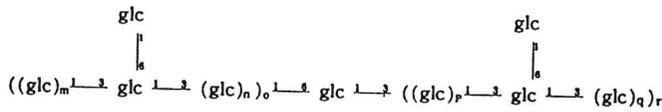
(成分) <sup>5)14)</sup>

糖 : pachyman 90.1

テルペノイド : eburicic acid, dehydroeburicic acid, pachymic acid (3β-0-acetyltumulosic acid と少量の 3β-0-acetyldehydrotumulosic acid の混合物), tumulosic acid

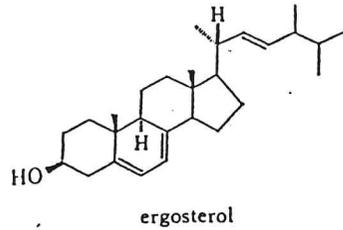
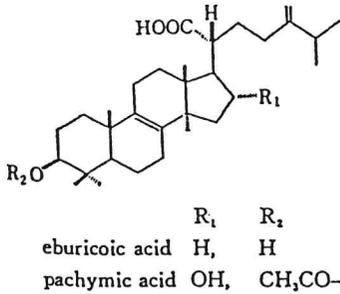
ステロール : ergosterol

その他 : 無機塩類など



glc =  $\beta$ -D-glucopyranose

pachyman



(現代薬理) 1) 5) 6) 20)

### ○利尿作用

水製エキスは、健康人、ウサギ、ラット、マウスなどに経口投与してもほとんど利尿作用は示さないが、生理食塩液負荷マウスに経口投与すると軽度の利尿作用が認められる。

### ○抗腫瘍作用

多糖画分 H<sub>11</sub> 分量約500万((1,3)-(1,6)- $\beta$ -D-グルカン)は腹腔内投与で、皮下移植したsarcoma180に対し、Pskより強い増殖抑制作用を示した。また、メタノールエキスは、マウス骨髄性白血病細胞の増殖を強く抑制した。サッカリンナトリウムによるラット膀胱発ガンを強く抑制した。

### ○免疫賦活作用

pachymanから誘導された直鎖状 $\beta$ -1,3-D-glucanであるpachymaranには、細胞性免疫賦活作用が認められた。

### ○抗炎症作用

水製エキスは、マウス(p.o)に対し、接触性皮膚炎の抑制作用を示した。

### ○性ホルモンに対する作用

水製エキスは、雌ラット連続(p.o)投与で卵巣組織中プロゲステロン量を増加させた。

### ○腎障害改善作用

水製エキス及びpachymanは、ラットのオリジナルタイプ抗GBM腎炎に対し

て経口投与したところ尿蛋白の排泄を抑制した。シスプラチンによる腎障害に対しても防御作用を示した。

○放射線障害防護作用

茯苓煎液及びHPLC法による糖画分にX線照射後の生残率増加が認められた。

○心臓収縮作用

水エタノール・エーテルエキスは摘出心臓灌流実験で収縮を強める作用がある。

○抗胃潰瘍作用

水製エキスは、ラットの胃潰瘍を予防する作用(Shay法)がある。また、マウス経口投与で拘束水浸ストレス胃潰瘍予防効果がある。

○血液凝固抑制作用

茯苓煎液は、フィブリン平板を用いたウロキナーゼによる線溶活性を軽度亢進させる。

○血糖上昇後降下作用

水製エキス又はエタノールエキスはウサギ経口投与で一過性の血糖上昇作用が認められ、その後顕著に下降する。

○育毛作用

熱メタノールエキスを、マウスの背部に脱毛後塗布したところ、毛再生速度の増加が認められ、その際ALPの活性化も示した。

(古典的薬効・薬能)

薬味：甘<sup>5)9)</sup> 薬性：平<sup>5)9)</sup> 帰経：心・肺・脾・胃・腎経<sup>9)</sup>

神農本草経<sup>12)</sup>：(上品に記載)

胸脇・逆気・憂恚・驚邪・恐悸・心下結痛・寒熱・煩満・欬逆を治し、口焦げ舌乾くを止め、小便を利す。久しく服すれば、魂魄を安んじ、神を養い、飢えず、年を延ぶ。

薬 徴<sup>10)</sup>：主治悸及肉瞶筋惕也。旁治小便不利。頭眩煩躁。

中 医 学<sup>9)</sup> : 利水滲湿・健脾和中・寧心安神

一本堂薬選<sup>16)</sup> : 試効 元気を順導し、水道通暢。

消渴を止め、停水を逐い、胎児を正常に発育させ、下痢を止め、  
津液を生じ、利尿をつける。

心下の動悸、排尿不良、むくみ。

(その他)

臨床応用<sup>9)17)</sup>

茯苓

+ 沢瀉・猪苓・桂皮 : 腎炎などによる全身浮腫 例) 五苓散

+ 白朮・桂皮 : 痰飲のための眩暈や動悸 例) 苓桂朮甘湯

+ 白朮・乾姜 : 乾湿のための下半身の冷え 例) 苓姜朮甘湯

+ 猪苓・沢瀉・滑石 : 膀胱炎などによる排尿障害 例) 猪苓湯

+ 人參・白朮 : 胃腸の虚弱体質の改善 例) 四君子湯

+ 縮砂・山薬 : 慢性的な消化不良、下痢 例) 参苓白朮散

+ 白朮・陳皮 : 胃内停水があり、上腹部の脹満や嘔吐があるとき 例) 茯苓飲

+ 桂皮・大棗 : 臍下に動悸があり、気が胸に上衝してくるとき

例) 苓桂甘棗湯

+ 柴胡・釣藤 : 神経が亢ぶった状態で、左腹部に動悸を触れるとき

例) 抑肝散加陳皮半夏湯

+ 酸棗仁・知母 : 虚弱体質の不眠症、例) 酸棗仁湯

—補足—

茯苓には、赤茯苓 (菌体外層部のことで、淡紅色をしている)、白茯苓 (菌体内層部のことで、白色をしている)、皮去茯苓 (薄い黒色の外皮をはいだもの)、茯苓皮 (黒色の外皮をはいだすぐ内側の部分)、茯神 (茯苓の中に松の根の通っているもの) という様なわけ方が存在する。<sup>4)9)17)</sup>

赤茯苓は補益性が弱いが清熱利湿の効能がある。茯神は鎮静・精神安定の作用

が強い。茯苓皮は補益作用はないが、利尿作用が強く、病後の衰弱で生じた顔面・四肢の浮腫などの軽度の水腫に用いる。<sup>9)17)</sup>

#### 茯苓採集・栽培

茯苓は、深さ15～30cmの根に付着して形成されることから、地上からはその存在を見ることはできません。従って、これを見付けるために茯苓突きと言われる道具（先の尖った鉄棒）で、伐採後3～5年を経た切株の半径10～20cmの周囲を突き刺して歩き、手の感触と鉄棒についた白い菌糸と臭気でその存在を知り、掘りあげます。<sup>7)15)16)17)19)</sup> 茯苓は、切株半ば朽ちているものが多いとか、東南の向きに多いとか、秋冬雑草の枯れた時に採集すると印した文献がある。<sup>8)</sup>

実際、生産は、秋～翌春にかけて行われる。<sup>1)</sup>

従来、マツホドは枯死したマツの根に寄生すると考えられていたが、生きたマツやその他の植物の根にも寄生し、菌核を作ることが確認されている。<sup>17)</sup>

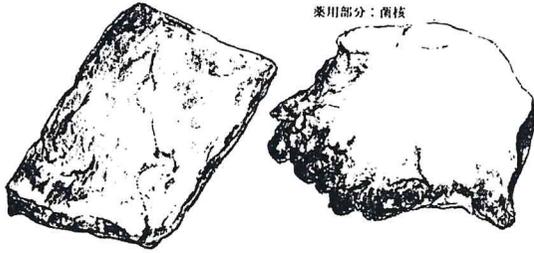
栽培の仕方は3通りあります。切り倒した松の幹を使って植え付け用の筒に植え付けて土の中に埋め込む方法。切り倒して松の根に植え付けて土を掛けておく方法。生きているままの、しかし近い将来切り倒す予定の松の木の根に同じように植え付ける方法。<sup>7)</sup>

茯苓の偽品として、南洋茯苓 (*Lentinus tuberregium*、ポナベ・サイバン産) がある。主な用途は、下剤である。茯苓との区別は、性状やヨード反応から容易に可能である。<sup>16)</sup>

#### (参考文献)

- 1) 日本薬局方 第十二改正
- 2) 和漢薬百科図鑑 難波恒雄著 保育社
- 3) ウチダ和漢薬勉強会資料 佐橋先生
- 4) ウチダ和漢薬の生薬資料
- 5) 生薬ハンドブック ツムラ
- 6) 現代東洋医学 医学出版センター 7(2)1986
- 7) 漢方製剤の知識 ツムラ 薬事新報社 (I) p186、(IX) p200

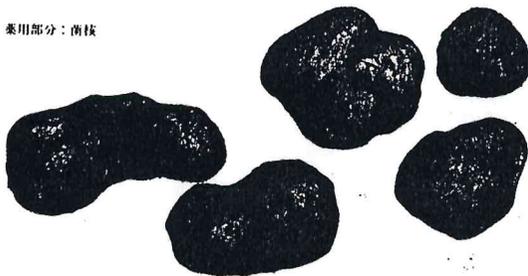
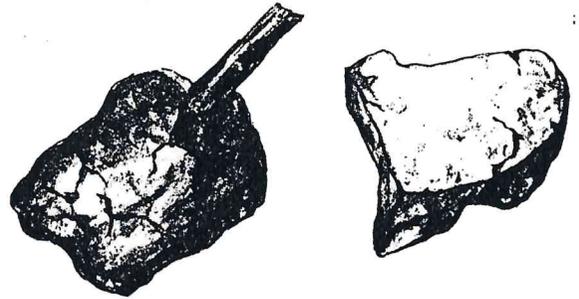
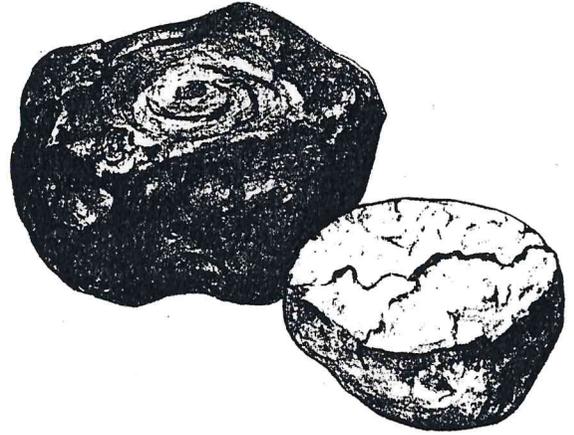
- 8) 新古方薬囊 荒木性次 方術信和会
- 9) 漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会
- 10) 薬徴・類聚方広義 西山英雄 創元社
- 12) 神農本草経 森立志 昭文堂
- 13) 意釈神農本草経 小曾戸丈夫 築地書館
- 14) 和漢薬物学 大塚恭男 南山堂
- 15) 和漢薬の世界 木村雄四郎 創元社
- 16) ツムラの生薬資料
- 17) 漢方のくすりの事典 -生薬・ハーブ・民間薬- 鈴木洋 医歯薬出版
- 18) 和漢薬の良否鑑別法及調製方 一色直太郎 谷口書店
- 19) 薬草カラー図鑑② 伊沢一男 主婦の友社
- 20) 原色牧野和漢薬草大図鑑 北陸館



薬用部分：菌核

1332. ブクリョウ (マツホド)  
〔アナタケ属〕(さるのこしかけ科)  
*Poria cocos* (Fr.) Wolf (茯苓)

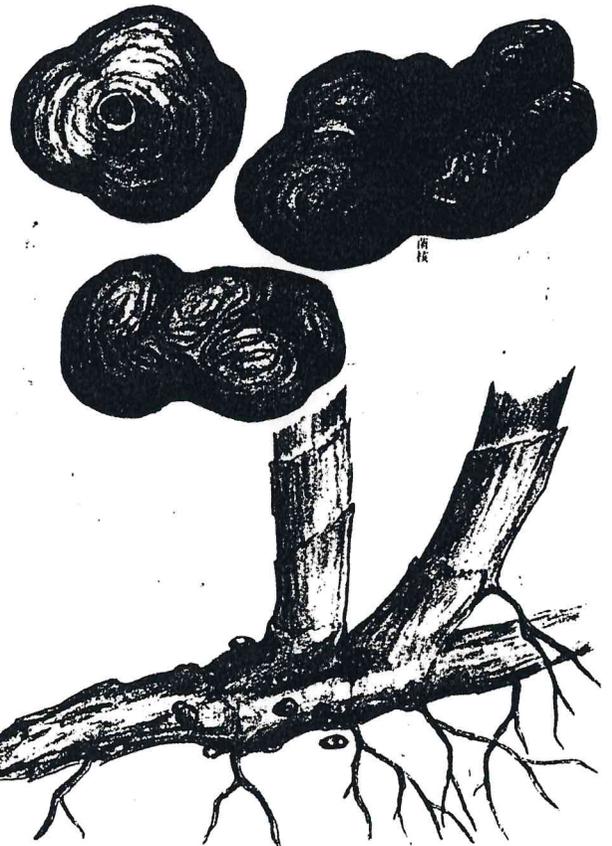
〔分布〕日本全土および中国、北米に分布し、主にアカマツなどの針葉樹に寄生する担子菌類。〔形態〕菌核は不定形で球形、卵円形、長円形など多様、長径10~30cm。表面は暗褐色か茶褐色で新鮮なときは柔軟だが乾燥するとかたくなり、しわができる。内部は白色から淡紅色で顆粒状で老成するとかたくなる。管孔は不定形か多角形。菌核上に子実体を形成することが確認されている。〔薬用部分〕菌核(茯苓<ブクリョウ>Ⓔ)。7~3月に地中にある菌核を掘り上げ、水洗いし、泥を落として日干しにする。〔成分〕菌核にトリテルペンのエプリコ酸、パキマ酸、ツムロース酸、多糖体のパキマンのほか、エルゴステロールなどを含む。〔薬効と薬理〕茯苓浸剤はウサギなどに対して弱い利尿作用がありまた、一過性の血糖量上昇作用が認められ、アルコールエキスでも同様の作用があるが6時間後顕著に下降する。茯苓抽出物は消化性胃潰瘍に対して軽度の予防効果があるほか、交感神経興奮、副交感神経抑制、平滑筋麻痺、自動運動振幅減少、緊張低下が認められる。茯苓は漢方の要薬であり、鎮静、利尿薬として心悸亢進、口渴、小便不利、胃内停水、めまいなどに応用される。〔使用法〕鎮静、利尿に、茯苓1日量9~15gを煎じて服用するほか、多くの漢方処方的配合される。〔処方例〕茯苓飲(金匱要略：茯苓、生姜、朮、陳皮、人參、枳実)などがある。



薬用部分：菌核

1333. ライガン (セイシチタケ属)  
〔さるのこしかけ科〕  
*Polyporus mylittae* Cook. et Mass. (= *Omphalia lapidescens* Schroeter) (中) 雷丸菌

〔分布〕中国揚子江流域以南に分布し、主にタケ類の根茎、まれにシュロやキリの枯樹の根ぎわに寄生する担子菌類。〔形態〕菌核は径1~2cmほどの不整形の塊状で、表面は暗黒色、内部は灰白色。質はかたくて重い。〔薬用部分〕菌核(雷丸<ライガン>)。タケ類の根元を深く掘って根茎に寄生する菌核を採取して乾燥させる。〔成分〕詳細は不明であるが、一種のプロテアーゼが含まれ、作用物質であると考えられる。またマグネシウムも多く含む。〔薬効と薬理〕プロテアーゼ(タンパク分解酵素)は水に溶け、メタノール、クロロホルムなどの有機溶剤には不溶で、アルカリ性溶媒中で作用が強く、酸性溶媒の中や加熱すると失活する特性をもつ。この酵素が腸管内の糸虫虫体を破壊する作用を担う。糸虫の駆除および虫による小児のかんしゃく諸症に対し効力がある。副作用はなく、マグネシウムに瀉下作用があるので、緩下剤の併用も必要ない。ただし、他の寄生虫、回虫や鉤虫、鞭虫、蟯虫にはほとんど作用しないといわれる。〔使用法〕1日量15~20gを散薬で3日間連用する。湯剤や煎剤では効力が半減する。〔処方例〕雷丸丹(萬金方：雷丸、鶴虱、使君子、胡黃連、木香、朱砂など)、〔その他〕主な産地は中国の四川、雲南、湖北、広西、貴州、陝西省があげられる。



平成12年9月18日  
大塚医院

# 参 考 資 料

茯 苓

(株)ウチダ和漢薬

## [原 植 物]

### 〈第13改正日本薬局方解説書〉

マツホド *Poria cocos* Wolf ( *Polyporaceae* サルノコシカケ科 ) の菌核で、通例、外層をほとんど除いたもの。

塊状を呈し、径約 10~30cm、重さ 0.1~2kg に達し、通例、その破片又は切片からなる。白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色である。外層が残存するものは暗褐色或いは暗赤褐色で、きめが粗く、裂け目がある。質は堅いが砕きやすい。ほとんどにおいがなく、味はないがやや粘液ようである。

マツ科の植物のアカマツやシナアカマツ等の根に寄生し、地下 20~30cm の深さのところについている。菌核の外皮(茯苓皮)、マツの根を完全に包んでいる菌核の白色部分(茯苓)、及びその木(茯苓木)も薬用にされる。

また中国で栽培される茯苓には、外皮を去ったすぐ内側の淡紅色部分を赤茯苓と称し、中央の真白な部分(白茯苓)とに分けて生産される。

## [市 場 品]

日 本 産：野生品である為、生産量が低下している。質は重く、粘り気があり、木目細かく堅い。色は淡紅色から淡桃色であり、良質品である。

産地は鹿児島、宮崎、北海道、長野、新潟、群馬などであるが、産出量は少ない。

北朝鮮産：野生品が主体である。色の差による白茯苓と赤茯苓の区別があり、最近では赤茯苓の輸入が主である(この区別は中国栽培ものの赤白の区別とは異なる)。

当社では北朝鮮産の茯苓に赤・白の区別は付けていないが、全体的には質が重く、堅さがあり、きめが細かく、色も日本産に似た良品である。

韓 国 産：北朝鮮産とほぼ同じ形状のもので、赤茯苓を主体にして生産しているようである。但し、産地高の為に最近では、市場性はない。

中 国 産：野生品と栽培品が存在する。

1) 野生品：雲南省の麗江・維西・青竜廠・石屏・楚雄・元江・尋甸及び貴州省の盤県などの少数民族地区で、年間産出量は合わせて 180t である。浙江省の天台・仙居・奉化等の県でも産出するが、雲南省で産出した品は品質が良く、通称“雲苓”という。我が国には、ほとんど入ってこない。

2) 栽培品：安徽省の岳西・潜山・太湖・霍山・金寨等の県は、安慶市及び六安市が集散地であり、湖北省の羅甸・英山・勝利等の県は、武漢市(漢口)が集散地である。貴州省の盤県・天柱等の県は、凱里が集散地である。

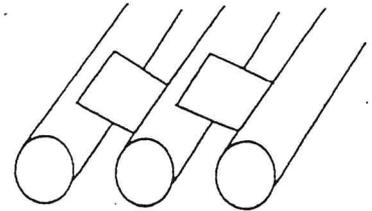
\* 当社の中国産茯苓は、貴州省の凱里で集荷・加工されたものである。

### [生産状況及び生産時期]

茯苓は栽培品と野生品があるが、ほとんどは栽培品である。栽培品は、山間部の平坦な土地を選び栽培する。周囲の樹木が少ないので、茯苓の産出は少ない。野生品は山の上の林木間に雑生するので、土の中には樹木の根が多く、茯苓も比較的多く産出される。安徽、湖北及び湖南省で栽培される茯苓は、栽培する最初の冬（11～12月）に直径約12cm位の馬尾松を伐採し、ノコギリで長さ約60cmにした木の皮を半分削る（ホダ木）。その後、山の上に野積みしておく。ホダ木への接種は、次の年の夏前後の適切な時期に確実に行わなければならない（ホダ木は一ヶ月位前に土中に埋めておく）。地元の人をこれを“搞填”と称する。畑自体は非常に大きい、一つの茯苓床を作るのに、松ノ木が約12Kg程必要である。

### [植 え 方]

栽培しようとする土地を掘り下げ、適当な深さのところに松の木を間隔を空けて置き、その木の上に小さい松の木片を渡すように置く（切り口には、菌糸を付けておく）。松の木片に植え付ける。



松の木片に植え付ける菌の種類として、次の3つの“引”というものがある。

- ① 漿引：新鮮な茯苓片を、松の木片の両端に付ける方法。
- ② 扱引：牛酪と混ぜてドロドロの状態の茯苓菌を木に付ける方法。
- ③ 木引：茯苓木を用いる方法。

いずれにしても丸太に松の木片を置き、その両端に菌を貼り、養分を引くということと考えられるが、一般には鮮茯苓を付ける“漿引”が多く用いられている。また、貴州省では、ホダ木の断面に直接接種する方法も用いられている。

“木引”で栽培された茯苓は、品質が最も良く、安徽省岳西地区で多く採集されている。色は白く変質せず、茯苓が多く出来る。

“扱引”によるものは、質が落ち生産量は一定せず、多い時と少ない時との差がある。接種後の翌年夏から秋（6～8月）にかけて採集する。成長は、地面の割れ目の度合いから予測することが出来る。これは山芋を栽培する時の割れ具合を見るのと、同じである。

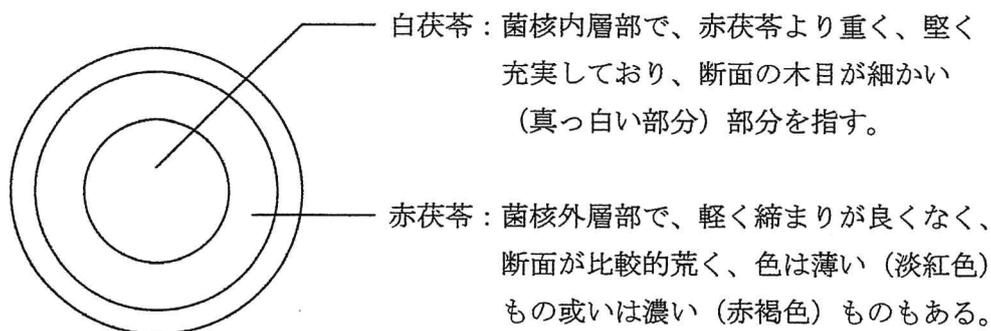
茯苓は両端の接種部分或いは少し離れた部分に出来たり、生育場所は一定しない。出来た後の土中の松の木は、腐ってしまう。

### < 参 考 1 >

雲南省及び浙江省等で取れる野生茯苓を探す方法としては、松の木の先端が黄色に変色しているものを探す。それは“病松”であり、そこには茯苓が付いていると判断し、その松の周囲を探す。すると、茯苓だけでなく、割と多くの茯苓も掘り起こす事が出来る。野生品は、冬期に掘り出された品質は良く、加工もし易い。

〈 参 考 2 〉

\* “白茯苓” 及び “赤茯苓”



※日本から朝鮮半島にかけての野生ものでは、クロマツに寄生したものを白茯苓、アカマツに寄生したものを赤茯苓と称し、区別していることもある。

[採 集]

品質は、掘り出し季節と深い関係にある。

5～6月に掘り出されたものは、身がスカスカとして乾燥に手間取り、色が悪く、保存が難しい。7～8月に掘り出されたものは、身が充実して、色も白く仕上がり、保管もし易い。

[加 工 規 格]

大きく分けて、6種類の加工規格がある

- 1) 鮑片：1次加工品を特製のカンナで薄片にしたもので、平片よりも優れた高級品である。
- 2) 平片：1次加工品を切り餅状に切断したもの。
- 3) 站片：1次加工品をサイコロ状に切断したもの。
- 4) 塊：マッチ箱状に加工したもの。
- 5) 碎：上記1)～4)から除かれたもの。
- 6) 個：“乾個苓”とも呼ばれるもので、皮付き茯苓の全形品。
- 7) 茯苓皮：一次加工品を作る時に切除した外皮。

[薬 理 作 用]

乾燥重量の約90%はpachymanという多糖である。またステロール(ergosterol)とlanostane系の4環性トリテルペンが知られる。

利尿作用

- ・健康人5名を用いた煎じ薬の投与を行い検討したが尿量の増加は認められなかった。
- ・マウスを用いた検討においても経口投与、皮下投与のいずれでも尿量の増加は見られなかったと報告されている。
- ・一方ではウサギに対する頸動脈からの長期投与実験で、茯苓の熱水抽出液及び粗多糖画分で有意に尿量を増加する。

### 腎障害改善作用

- ・茯苓の水製エキス及び pachyman はラットのオリジナルタイプ抗 GBM 腎炎に対して経口投与したところ尿蛋白の排泄、血清コレステロール量、CH<sub>50</sub> 値及び糸球体への補体 C<sub>3</sub> 沈着を抑制し腎障害改善作用が考えられた。

### 消化器系への作用

- ・摘出ウサギ腸管に対して緊張低下作用を示す。
- ・拘束水浸ストレス胃潰瘍に対しては茯苓エキスのマウスの経口投与で潰瘍予防効果がある。
- ・ラットエタノール潰瘍に対しては生姜、甘草、半夏、蒼朮、茯苓、人参に障害抑制作用が認められた。
- ・Okui らはラット十二指腸に茯苓エキスを投与したところ胃迷走神経の遠心性活性の上昇がみられた。
- ・茯苓の多糖画分、トリテルペノイド画分に著しい効果があることを明らかにした。
- ・硫酸銅による嘔吐に対する作用を検討した報告では茯苓から分離されたトリテルペン類に鎮吐作用が認められた。

### 心臓に対する作用

- ・茯苓の水・エタノール・エーテルエキスが摘出心臓、還流実験で収縮を強めたという報告がみられる。
- ・雑種成犬で実験的出血性ショックに対して茯苓四逆湯の投与は心拍出量の増加と体温の保持効果が認められ、ショックに対して有効であった。

### 抗腫瘍作用、抗炎症作用

- ・茯苓の培養菌体から H<sub>11</sub>、H<sub>12</sub>、H<sub>2</sub> と名付けた多糖画分（グルカン）を得たが、そのうち H<sub>11</sub>（分子量約 500 万）のみが腹腔内投与で sarcoma180 に対し増殖抑制作用を示すことを報告した。
- ・メタノールエキスはマウス骨髄性白血病細胞の増殖を強く抑制した。
- ・マイトマイシン C の抗腫瘍作用の増強効果、サッカリンナトリウムによるラット膀胱発癌を抑制した。
- ・茯苓の多糖 pachyman から誘導された直鎖状 β-1, 3-D-glucan である pachymaran には、細胞性免疫賦活作用が認められた。
- ・茯苓の水製エキスはマウスへの経口投与で塩化ピクリルによる接触性皮膚炎に対し抑制効果を示した。
- ・抗炎症作用はトリテルペン類にあるとの報告がみられる。
- ・カラゲニン、アラキドン酸、TPA などによる炎症に対して茯苓エキスが抗炎症作用を示すことを報告し、活性物質として dehydrotumulosic acid と pachymic acid を単離した。
- ・煎じ液及び糖画分に X 線照射後の生存率の増加が認められ放射線障害防護作用が報告されている。

### 神経系に対する作用

- ・茯苓を含む処方が記憶学習能を改善し、アセチルコリンエステラーゼの阻害作用によることが報告されている。

### その他の作用

- ・熱メタノールエキスをマウス背部に脱毛後塗布したところ、毛再生速度の増加が認められ育毛作用が報告された。

### [漢方薬理]

薬 徴：悸及ビ肉瞶筋楊ヲ主治スル也。旁ラ小便不利、頭眩、煩躁ヲ治ス。

重 校 薬 徴：利水ヲ主ル。故ニ能ク停飲、宿水、小便不利、眩、瞶動ヲ治シ、兼ネテ煩躁、嘔、渴、下痢、咳、短気ヲ治ス。

古 方 薬 議：胸脇逆気、恐悸、心下結痛、煩満ヲ主ル。小便ヲ利シ、消渴ヲ止メ、胃ヲ開キ、瀉ヲ止メル。

薬 性 提 要：脾ヲ益シ、湿ヲ除ク。心ヲ補シ、水ヲ行ス。魂ヲ安ジ、神ヲ養ウ。

古方薬品考：能ク津液ヲ生カシ、消渴ヲ止ム。又能ク痰飲、宿水、嘔逆、ヲ瀉シ、煩満等ヲ瀉ス。

#### 〈参 考 1〉白茯苓と赤茯苓について

陶 弘 景：白色のものは補し、赤色のものは瀉す。

李 時 珍：赤は血分に入り、白は気分に入る。

#### 〈参 考 2〉漢薬運用の実際

赤 茯 苓：性味は茯苓と同じで、補う作用に違いがある。そのため、補剤中には赤茯苓を用いず白茯苓を用いる。また赤茯苓の主要作用は湿熱を清す作用である。

茯 苓 神：性味は茯苓と同じで、鎮静作用に長じている。

茯 苓 皮：性味は茯苓と同じで、もっぱら利尿効果を有し、補う作用はない。従って軽症の水腫を治療する。

### 【参考文献】

- (1) 第13改正日本薬局方解説書 廣川書店
- (2) 葯材資料汁編上海科学技術出版社
- (3) 漢方基礎講座 生薬の薬効・薬理シリーズ⑬ (漢方研究 1998/2)
- (4) 中華人民共和国葯典 1995 年度版
- (5) 漢薬運用の実際 伊藤清夫監修

## <参 考>

### \* 白茯苓と赤茯苓について

- ・皮黒肉有赤白二種。或云是多年松脂流入土中變成、或云假松氣於本根上生。(本草図經)
- ・赤茯苓真者難多得也多外白内赤此未乾者収櫃故変色然耳輕虚者不宜(和漢三才図会)
- ・凡ソ茯苓ハ黒松ニ生シ松耳ハ赤松ニ生スルモノナリ赤松ニモ茯苓ヲ生スレドモ少シ即赤茯苓ナリ…………切テソノ色内外白キ者アリ白茯苓ナリ内外赤キ者アリ赤茯苓ナリ外白内赤キ者アリ原白色ナル者腐テ赤キ者アリ輕虚ナル者アリ緊実ナル者アリ根ノ大小ヲ問ズ緊実ナル者ヲ択ベシ色白シト雖輕虚ナレバ佳ナラズ(本草綱目啓蒙)
- ・黒松ヲ生ズル地ニハ白茯苓多ク赤松ヲ生ズル地ニハ赤茯苓アリト云フ(和漢薬考)
- ・赤茯苓係除去茯苓皮后最外辺の淡紅色部分、有利尿作用。白茯苓係切去赤茯苓后的白色部分、健脾利湿。(中薬志)

### \* 白茯苓と赤茯苓の薬効の比較

- ・白色者補、赤色者利。(本草經集注)
- ・茯苓赤瀉白補、上古無此說。(潔古珍珠囊)
- ・白者入壬癸、赤者入丙丁。(用薬法象)
- ・白者入手太陰足太陽經氣分、赤者入足太陰手少陰太陽氣分。(湯液本草)
- ・陶弘景始言茯苓赤瀉白補、李杲復分赤入丙丁白入壬癸、此其發前人之祕者、時珍則謂茯苓茯神、只當云赤入血分白入氣分、各從其類、如牡丹芍薬之義、不當以丙丁壬癸分也、若以丙丁壬癸分、則白茯神不能治心病、赤茯苓不能入膀胱矣、張元素不分赤白之說、于理欠通。(本草綱目)
- ・重実して白く、微かに淡紅色帯ぶる者を良と為す。……斯の言や之を得、赤白補瀉の説は古の無き所なり。従うべからず。(重校薬徴)
- ・小便不利、水腫脹満、泄瀉、停飲、淋濁、驚悸等ノ症ヲ治ス；赤茯苓、湿熱ヲ瀉シ。窮ヲ利シ水ヲ行ラシ治ス(葯材学)

\* 選品

- ・形多小虚赤不佳。自然成者、大如三四升器、外皮黒細皺、内堅白、形如鳥獸龜鼈者良。(本草經集注)
- ・似人形龜形者佳(本草図經)
- ・茯苓有大如斗者、有堅如石者、絶勝。其軽虚者不佳。蓋年浅未堅故爾。(本草綱目)
- ・内赤ク外白ト内外共ニ白ト赤ト堅実ト軽虚ト大小ト種々アリ堅実ニシテ大ナル内外共ニ潔白ナリト云ヘトモ軽虚ナルハ不可用真ノ赤茯苓甚希ナリ元白ヲ乾シ損シテ赤クナスナリ。外白内赤者多シ是ハ大坂ニテ乾ス時能日ニ乾セバ片ワレテ所見悪キ故ニ不熟ニシテ櫃ニ入内ニテ自ラ乾ス故ニ茯苓ノ内クミ腐リテ赤ク外ハ一タヒ日ニ曝故ニ白シ薬力甚悪シ不可不択(本草弁疑)
- ・重実して白く、微かに淡紅色帯ぶる者を良と為す。……斯の言や之を得、赤白補瀉の説は古の無き所なり。従うべからず。(重校薬徴)
- ・内部ハ肉質粒状ニシテ白色或ハ淡赤色ヲ呈シ白色ノモノハ質堅実ニシテ淡赤色ノモノハ質軽虚ナリ、甲ヲ白茯苓ト云ヒ上品ナレドモ乙ハ赤茯苓ト云ヒ下品ナリ(和漢薬考)

\*栽培について

- ・唐山ニテハ人力ニテ栽ナスモノアリ本經逢原ニ一種栽蒔而成者日蒔苓出浙中但白不堅入薬少カト云本草彙言ニモ浙江温州處州等處山農ツクリ出ス法ヲ載タリ(本草綱目啓蒙)